

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如水会		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1574		
自己評価作成日	平成30年 1月 26日	評価結果市町村受理日	平成30年6月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成30年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関に隣接しており、入居者の急変時の対応ができる。また、経管栄養、喀痰吸引のできる施設として登録しており、医療度の高い方も受け入れが可能となっている。身体拘束ゼロを目指し玄関の施錠はせずに家族の方が気軽に面会出来る環境となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に位置し、母体である医療機関に隣接したホームである。24時間体制で適切な医療が受けられることに加え、ほとんどの職員が喀痰吸引の対応ができるため、医療的ニーズの高い入居者も対応可能である。看取りも行われており、家族や職員に見守られながら、最期まで安心して生活できるよう支援されている。また、事業所の夏祭りに地域住民の方の参加があったり、地域住民の方が事業所に気軽に立ち寄り、地域と積極的に交流されているが、今春に隣の敷地に保育所が開設予定で、そこでも交流される予定である。家族との関係や職員間のコミュニケーションも良好で、入居者、職員全員が明るく、元気に生活されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	1F	2F		1F	2F
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(1階)		自己評価(2階)		外部評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供しつづける」をカンファレンスで唱和を行い確認する	法人理念「すべての人に健康という幸せを提供しつづける」をカンファレンスで唱和を行い確認する	法人の理念と事業所独自の理念を作成し、玄関に掲示、唱和されている。また、一年ごとの目標を会議で定め、実践されている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流は夏祭りに限定されるが、顔見知りになり挨拶は続けている。	地域の方との交流は夏祭りに限定されるが、顔見知りになり挨拶は続けている。	地域の方が気軽に立ち寄ったり、事業所の夏祭りに地域の方が参加したりと、日常的に交流されている。今後、隣接して開所される保育所とも交流される予定である。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に特化出来ていないが、夏祭りにおいて「非常食の展示」をおこない地域の方に重要性を訴えている	認知症に特化出来ていないが、夏祭りにおいて「非常食の展示」をおこない地域の方に重要性を訴えている				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行い、参加家族の方同士の交流の場にもなっている。ホームの取り組みなどの紹介と問題点なども家族にも伝え共に考える場になっている。	2ヶ月に1度行い、参加家族の方同士の交流の場にもなっている。ホームの取り組みなどの紹介と問題点なども家族にも伝え共に考える場になっている。	2ヶ月に1回開催し、入居者家族や市福祉課職員等の参加がなされている。活動報告や活発な意見交換がなされ、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努められている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	GH協議会の役員となり日頃より介護保険課の方との交流が増えた。また、利用者の問題などは積極的に伝えてホームでの対応をつたえている	GH協議会の役員となり日頃より介護保険課の方との交流が増えた。また、利用者の問題などは積極的に伝えてホームでの対応をつたえている	市の担当者とは連絡を密に取り、良好な協力関係が構築されている。また、地域のグループホーム協議会の活動にも参加し、連携を図られている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみであり、フロアにはセンサーはあるが施錠は夜間のみである。	フロアのセンサーはあるが施錠は行っていない。4点柵を必要としている方がいるため、カンファで今後も必要かを検討している。	玄関の施錠等はされていないが、4点柵のベッドを使用している入居者がいる。同意のもと、期限を定め、経過を記録しながら使用されており、会議でも解除に向けて検討を続けられている。身体拘束については、研修や勉強会で職員全員が理解、共有されている。	身体拘束については十分に理解されているが、4点柵の使用について、今後も経過を記録しながら、解除に向けた検討を重ねていかれることを期待したい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の年間スケジュールを組み、施設全体で学び、個別で研修参加されたスタッフには研修内容の発表を行ってもらっている	勉強会の年間スケジュールを組み、施設全体で学び、個別で研修参加されたスタッフには研修内容の発表を行ってもらっている				

自己	外部	項目	自己評価(1階)	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターのスタッフから勉強会を開催してもらい学ぶ機会をつくっている	地域包括センターのスタッフから勉強会を開催してもらい学ぶ機会をつくっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、またはケアマネジャーが必ず契約書を読み上げその都度不明な点はないは聞きながら行っている	管理者、またはケアマネジャーが必ず契約書を読み上げその都度不明な点はないは聞きながら行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置している。運営推進会議の場においても質問の時間を設けている	玄関入口に意見箱を設置している。運営推進会議の場においても質問の時間を設けている	面会や運営推進会議の際に家族等の意見や要望を聞き、それらを検討することで運営に反映するよう努められている。また、意見箱も設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見を出し合って改善に努めている	カンファレンスで意見を出し合って改善に努めている	会議や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞き、法人で話し合い、検討することで運営に反映するよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の個人面談を行い、希望や不満などを聞き取り、沿うようにしている。同時に個人目標を立てる機会にしている	年に2回の個人面談を行い、希望や不満などを聞き取り、沿うようにしている。同時に個人目標を立てる機会にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修を内容をもて進めてスキルアップを図っている	外部での研修を内容をもて進めてスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の役員となり活動を通して他の施設の方との交流が増えている	グループホーム協議会の役員となり活動を通して他の施設の方との交流が増えている		

自己	外部	項目	自己評価(1階)	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者、家族には施設見学をすすめてホームの雰囲気を知ってもらい安心して過ごせるような関係作りをしている	入居希望者、家族には施設見学をすすめてホームの雰囲気を知ってもらい安心して過ごせるような関係作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を密にとり入居者の状況を報告し、不明な点を明らかにしてケアに結び付けている	連絡を密にとり入居者の状況を報告し、不明な点を明らかにしてケアに結び付けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の反応や行動を見極めて柔軟に対応している	本人の反応や行動を見極めて柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を畳んでもらったり、他者の方とも会話をしたり出来るようにしている	洗濯物を畳んでもらったり、他者の方とも会話をしたり出来るようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状態の報告を行い、家族が面会に来られた際の入居者の喜びの様子をつたえている	面会時には状態の報告を行い、家族が面会に来られた際の入居者の喜びの様子をつたえている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の職場の方の面会など家族に確認をして面会につなげている	ほとんど家族のみの面会でなじみの場が無い状態	友人や知人等の面会があり、その際はゆっくり過ごせるよう配慮されている。また、希望に応じて馴染みの人に連絡を取ったり、家族の協力で馴染みの場所へ外出したりと、関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内を独歩や車椅子を自走し自由に行きかう事が出来ている、その際に新聞はどうなどの交流はあっている	食事介助などケアが必要な方が多く利用者同士の交流はあまりみられない		

自己	外部	項目	自己評価(1階)	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった年度には初盆の挨拶を行っている	亡くなった年度には初盆の挨拶を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを定期的に見直している、変化の応じて修正もおこなっている	ケアプランを定期的に見直している、変化の応じて修正もおこなっている	日々の会話の中から、一人ひとりの思いや意向の把握に努められている。困難な場合は、表情や様子等から、アセスメントをもとに複数の職員で協議し、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話など写真を家族に持ってきてもらいきている。既往歴などは本人も記憶になく家族(特に子供)にもわからない事が多い	昔の話など写真を家族に持ってきてもらいきている。既往歴などは本人も記憶になく家族(特に子供)にもわからない事が多い		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して変化があるので、その都度スタッフに伝達し対応を変化させている	一日を通して変化があるので、その都度スタッフに伝達し対応を変化させている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、計画作成担当者を中心にスタッフの意見や観察をして家族にも聞き取りを行い反映している	ケアマネージャー、計画作成担当者を中心にスタッフの意見や観察をして家族にも聞き取りを行い反映している	本人や家族、主治医等の必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画が作成されている。また、1ヶ月毎にモニタリングを実施し、必要に応じて計画を修正、変更されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録とはべつにケアプランにたいする日々の記録も行い次回のケアプランに活かせるようにしている	個人記録とはべつにケアプランにたいする日々の記録も行い次回のケアプランに活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定したものはなく、その都度自由にサービスは変更し、個別で対応できている	固定したものはなく、その都度自由にサービスは変更し、個別で対応できている		

自己	外部	項目	自己評価(1階)	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事に地域ボランティアさんと呼んで踊りなどを披露してもらい楽しんでもらっている	行事に地域ボランティアさんと呼んで踊りなどを披露してもらい楽しんでもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関と連携できている	関係医療機関と連携できている	希望に応じてかかりつけ医への継続受診が可能であり、往診もあっている。また、専門医へは家族の協力で受診されている。母体法人が協力医療機関のため、24時間体制で適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の観察を行い変化がある時は主治医と連絡を行い指示を仰ぎ、状態の悪化を防止している	状態の観察を行い変化がある時は主治医と連絡を行い指示を仰ぎ、状態の悪化を防止している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は毎日面会を行い病棟スタッフから情報収集し、また、痰飲の許可があれば速やかに受け入れている	入院中は毎日面会を行い病棟スタッフから情報収集し、また、痰飲の許可があれば速やかに受け入れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当時から看取りや終末期について考えてもらうように説明し、ホームでの出来る対応を説明し、スタッフとも本人にとっての幸せとは何かについて話をしている	入居当時から看取りや終末期について考えてもらうように説明し、ホームでの出来る対応を説明し、スタッフとも本人にとっての幸せとは何かについて話をしている	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に説明し、同意を得られている。また、状態に応じて家族等に十分に説明しながら対応し、看取りも行われている。看取りについては、職員全員で理解、共有しながら支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法を年に一度の講習を消防署に依頼し講義を受けている	心肺蘇生法を年に一度の講習を消防署に依頼し講義を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく、風水害時の避難についても話合い、取り決めをしている。地域との連携はとれていない	火災だけでなく、風水害時の避難についても話合い、取り決めをしている。地域との連携はとれていない	年2回、昼夜を問わず避難訓練が実施されている。火災以外の災害に対しては、避難場所や避難方法等を確認し、備蓄もされている。しかし、地域住民との協力関係の構築はこれからである。	地域との連携について、地域の特性も踏まえて、今後、訓練の周知・案内等から始め、協力体制が構築されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(1階)	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めると馴れ馴れしいを間違わないように心がけている	親しみを込めると馴れ馴れしいを間違わないように心がけている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応がなされている。接遇に関する外部研修にも積極的に参加し、会議で振り返りが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすい質問の仕方をするなどしている。決められなくてもあせらせることはしない	答えやすい質問の仕方をするなどしている。決められなくてもあせらせることはしない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などその日の気分の応じてすすめている	入浴などその日の気分の応じてすすめている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた身だしなみができるように衣類の整理などを行っている	季節に応じた身だしなみができるように衣類の整理などを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人にあわせて食事形態を取り入れている	本人にあわせて食事形態を取り入れている	希望に応じて献立を変更したり、行事食を提供したり、外食に出かけたり、おやつ作りを一緒にしたりと、食事が楽しみなものになるよう支援されている。また、食事の準備や盛りつけ等、できる範囲で入居者と職員と一緒にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要であれば刻んだり、とろみをつけたりしている	必要であれば刻んだり、とろみをつけたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを援助している。	毎食後の歯磨きを援助している。		

自己	外部	項目	自己評価(1階)		自己評価(2階)		外部評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は出来るだけトイレでの排泄を目指して援助している		昼間は出来るだけトイレでの排泄を目指して援助している		定時での誘導や、様子を見ながら随時言葉かけすることで、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じ下剤などを使用している		必要に応じ下剤などを使用している		/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に合わせて湯船につかる時間をスタッフがきめることもあるが、だいたい希望にあわせている		体調に合わせて湯船につかる時間をスタッフがきめることもあるが、だいたい希望にあわせている		週3回の入浴であるが、希望に応じていつでも入浴が可能である。拒否される方には、タイミングや言葉かけを工夫しながら支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の方もいるが眠剤は使用せず本人に合わせている。時間の説明をし寝る時間と促す事もある		昼夜逆転の方もいるが眠剤は使用せず本人に合わせている。時間の説明をし寝る時間と促す事もある		/	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	血圧や下剤については血圧チェックや排便チェック表で確認し、変化があれば主治医に報告するようにしている		血圧や下剤については血圧チェックや排便チェック表で確認し、変化があれば主治医に報告するようにしている		/	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性は洗濯物など家事の協力をお願いしているが、男性は興味をひくものを検討している		女性は洗濯物など家事の協力をお願いしているが、男性は興味をひくものを検討している		/	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	売店に行きたいなどの希望に応じている		売店に行きたいなどの希望に応じている		天候に応じて、近所に散歩や外気浴に出かけられている。また、希望に応じて買い物や外食、家族の協力でドライブに出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価(1階)	自己評価(2階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方もいるが、小額である。基本的にはおかねの持ち込みを遠慮してもらっている	お金を持っている方もいるが、小額である。基本的にはおかねの持ち込みを遠慮してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてなどには対応している。携帯電話を持っている方もいる。	電話をかけてなどには対応している。携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いにおいは虐待であると意識し、匂いなどには気をつけて消臭剤などをしようしている。家具に配置なども移動に支障がないようにしている	臭いにおいは虐待であると意識し、匂いなどには気をつけて消臭剤などをしようしている。家具に配置なども移動に支障がないようにしている	共有空間には、手作りの装飾品や写真が飾られ、温かみのある雰囲気である。加湿器の設置や消臭剤の使用で、温湿度や臭い等にも配慮し、居心地よ過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室であるので、フロアでは隣同士で談笑できるかたなどを隣にするなどしている	居室は個室であるので、フロアでは隣同士で談笑できるかたなどを隣にするなどしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具など持ち込んでもらっている	ご自宅で使用していた家具など持ち込んでもらっている	居室には家具や写真等、使い慣れたものや好みのものを何でも持ち込みが可能である。また、居室の消臭にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内を自由にして頂いている。危険な行為などには注意はしているが、監視にならないようにしている	出来ることを制限はしていない。好きな音楽をゆっくり聞ける雰囲気づくりを行っている		